



※本紙の名前は、チューリップの花言葉の「博愛」「思いやり」から命名しました。

Human Rights News Paper Zentsuji

普通寺市市民生活部人権課

2018/12 発行

**今年は、国連で『世界人権宣言』が採択されて70年目の年です。
全ての人の基本的人権を尊重することが、世界を平和にします。**



「たいへん」なことではありません、 「ふつう」です

四国学院大学教授 富島 喜揮 (とみしまのぶき)

(普通寺市人権政策審議会会長)

(人権と文化の多様性に関する委員会委員長)

私は、現在の職場である四国学院大学に勤務する前は、精神保健福祉士として精神障害のある人たちの医療、保健、福祉に関わる仕事をしていました。あまり知られていない職種なので、仕事について問われることがよくありました。そのような時は、精神科病院に勤めるソーシャルワーカーですと答えていました。

多くの方は、ソーシャルワーカーという職名を聞いたことがないのか、「私もカウンセリングをしてください」と物珍しげに言葉を返してきます。その都度、「カウンセラーではありません。ソーシャルワーカーです。精神障害のある人の社会参加のための仕事をしています」と説明をします。ここまでは問題はありません。問題は次に出てくる言葉です。それは、「たいへんな仕事ですね、精神科の患者さんを相手にするなんて」という言葉です。

若いころは、「たいへんですね」という言葉を聞いてどのように返してよいのか分からず戸惑うこともありましたが、慣れてくると「ふつうです」と返すようになりました。

「ふつうです」、何がどのように普通なのか。紙面の関係で「ふつう」の中身や定義について触れるのは控え、このまま「ふつう」として書き進めます。

要は、私の仕事を聞いて「たいへんですね」という人たちの中には、精神障害者を相手にするのが「たいへんですね」という意味合いを込めているのです。

私は信念として、精神障害者の人権の擁護といった立場で精神障害のある人たちと対等にあろうとして仕事をしてきました。その私が、「たいへんですね」と言われて、「そうです、たいへんです」なんて言えるものではありません。「たいへんですね」という言葉に同調することは、精神障害のある人の前で「平等だ、対等だ」と言っているながら、本音のところでは精神障害のある人たちを、たいへんで特別な人として接していることになり、本音と建前を使い分ける、都合の良い差別者ということになります。

また、私が「たいへんです」と言ってしまうことで、周りの人たちに精神障害のある人は「たいへんな人です」と差別心を助長することにもなります。

そこで思い至ったのが「ふつうです」という言葉です。この言葉を使うことで、何も精神障害のある人は特別な人ではない、更には何がどのように普通なのかという話をする機会ができ、私にとって便利な言葉になりました。もちろん、当たり障りなく話を済ませるために使うものではありません。

職業に貴賤はなく、いかなる仕事も尊いものです。精神保健福祉士も同じです。それは仕事として「たいへん」であって、精神障害のある人が相手だから「たいへん」というものではありません。中には自分の仕事のたいへんさを示すことで、自分を偉く見せたり大きく見せたりする人がいますが、それは精神障害のある人を自分のために都合よく使っているだけに過ぎず、人に対する冒涇だと思います。

私が生業としていた精神保健福祉士の仕事は、「たいへん」なことではなく「ふつう」のことでした。むしろ「たいへん」なのは、「たいへんな仕事ですね」としたり顔で話しかける人たちでした。

LGBT(性的少数者)とは

「LGBT」という言葉を聞いたことがありますか？

これは、次の言葉の頭文字をとって組み合わせた言葉です。

L(レズビアン)、G(ゲイ)…同性が恋愛対象の人
B(バイセクシャル)…男性、女性両方が恋愛対象の人
T(トランスジェンダー)…「身体の性」と「心の性」に違和感を持っている人。

性については、この他にも、だれも恋愛対象にしない人や、自分の性がわからない人など、様々な人がいます。

このような多様な性についての差別や偏見のない社会を作るためには、あなたの理解や行動がとても重要です。

善通寺市では、LGBT(性的少数者)を理解し、支援するため、LGBT Ally(アライ=支援者)のカードを、市役所や学校などの公共施設の窓口に設置しました。

市民一人ひとりの多様性を相互に尊重し、みんなが活躍できる、豊かな地域社会を実現しましょう。

※「広報 ぜんつうじ」平成28年8月号の人権課の記事中に、「レズビアン」を「レズ」と誤記しておりますこと、この紙面をかりて深くお詫び申し上げます訂正いたします。

「二〇一七年度人権ツアーに参加して」

人権尊重のスキルを学ぶ実践的な人権教育・啓発活動の手法として、フィールドワークなどによる参加体験型を通して正しい理解を深めるために、二七名が参加しました。

●研修地 大阪市生野区のコリアタウン：コリアタウンや鶴橋の駅前の商店街を視察しました。多民族共生人権教育センターで、鶴橋周辺に朝鮮半島出身者がなぜ多いのかという説明を受けました。戦前に軍隊の工廠が有り、低賃金、劣悪環境で働く人を集め、その人たちが戦後焼け野原で闇市を開き、現在の発展した街になっています。

●研修地 堺市役所：人権尊重社会の実現は、地方自治体の責務です。その為には、職員一人ひとりが高い人権意識を持たなければならぬという事で、各課ごとに人権担当者を設置し、二年間にわたり総合的、計画的に人権担当者研修を実施し、職員の人権意識の向上を図っています。

●研修地 兵庫盲導犬協会：盲導犬を一頭育てるのに、二年から三年かかり、実際に盲導犬となれるのは、十頭中二、三頭で、費用も五〇〇万円かかります。そして二〇歳になると、盲導犬としての役目は終わります。盲導犬がスムーズに活動できるように、暖かい目で接してあげなければいけません。

二日間の研修でしたが、今まで知らなかったことや実態を少しでも見ることができました。差別によって傷つく人をできるだけ少なくしていくことが、私達のするべき道だと感じました。

善通寺市連合自治会長 大西 稔



善通寺市の『おとう飯(おとうはん)』

内閣府では、男性が手軽に料理を作れるように、簡単で手間を掛けず、多少見た目が悪くても美味しい料理を「おとう飯(おとうはん)」と命名しました。これは、お父さんに、料理に親しんでもらうためのものです。

本市もこのキャンペーンに参加し、本市の男女共同参画セミナー講師の池内靖子先生に依頼して、下記のレシピを完成しました。お父飯(おとうはん)のレシピには、地元食材を積極的に使うことが条件となっています。

そこで、本市の特産品である「ダイシもち麦」や「らりるれレタス」を使用しました。簡単にできますので、お試しいただき、家族みんなで楽しんでください。そして、「お父さん、美味しかった。」と言ってあげてください。



⇒ ダイシもち麦のスペシャルおはぎ(12個分) ⇐

【材 料】【もち米】…4合 【ダイシもち麦】…150g² 【塩・砂糖】…20gづつ
【きな粉・黒ごま・青のり】…適量 【餡こ】…360g²(30g²×12個)

【作り方】・もち米、ダイシもち麦を混ぜて水洗いし、2時間ほど水につけておき、塩を入れておく。
炊きあがれば、よく蒸らし、砂糖を入れ、ぬれたすりこぎでつぶす(①)。
・①に、餡こ1個につき30g²を包み、きな粉、黒ごま、青のりをまぶす。

⇒ らりるれレタスの香り漬け ⇐

【材 料】【レタス】…1kg 【キュウリ】…1本 【にんじん】…2分の1本、レモン…1個
【塩】…大さじ2杯 【砂糖】…小さじ2杯 【塩昆布】…50g²

【作り方】・レタスを食べやすい大きさにちぎる(①)。キュウリは輪切り、にんじんは、千切り、レモンはくし型に切る(②)。①②の材料と調味料を混ぜてビニール袋に入れ、空気を抜き、冷蔵庫で30分寝かせる。